

4年制大学では関西唯一。

視能訓練士の国家試験受験資格が取得可能。現場レベルの設備に、実習も充実。

医療福祉学科

視能訓練専攻

取得可能な資格

視能訓練士(国)受験資格、社会福祉主事任用資格

特長

段階的な教育、充実した実習設備、
徹底した技術指導と国家試験対策で、視覚のスペシャリストを育成します。



少人数制教育

現場を知る教員が実践的な技術や専門知識を少人数制で指導。コミュニケーション力や人間性、社会性も培います。



基礎力を固める4年間

将来にわたって継続した成長を実現するために、4年間の学びでは基礎力を重視。
安全で良質な医療の実践を目指し、知識と技術を習得します。



国家試験対策

対策講座を設け、分野ごとに教員が解説。
模擬試験で力を確かめながら指導を行い、
国家試験合格に向け全力でバックアップします。



充実した実習設備で 臨床場面で必要な技術を習得

視力検査装置やオートレフラクトメータをはじめ、眼科の臨床の場で実際に使用されている機器を多く備えています。
機器の扱い方から様々な患者さまへの対応のポイントまで、現場での経験を持つ教員が指導し、実践的なスキルを学内で着実に身に付けることができます。授業以外にも手技の練習用に実習室を開放しています。授業の復習をはじめ、技術向上に向けて頑張る学生のやる気に、充実した設備とサポート体制で応えます。

福祉・介護 × 保育・教育 × 心理 × 医療技術・リハビリ

つながる、ひろがる、チーム支援の学び。



学校法人 薫英学園

大阪人間科学大学

人間科学部

●社会福祉学科 ●医療福祉学科[介護福祉専攻／視能訓練専攻] ●子ども保育学科
●健康心理学科 ●医療心理学科[臨床発達心理専攻／言語聴覚専攻] ●理学療法学科

入試広報センター TEL.06-6318-2020 | 〒566-8501 大阪府摂津市正雀1-4-1 | <https://www.ohs.ac.jp/>



時間割で見る対人援助のプロを目指す4年間

視能訓練士



資格取得と就職だけを目的にしない、

視能訓練士として活躍するために本当に必要な「価値ある能力」の獲得。

派手な教育ではないけれど、「成長に本気」な4年間が大阪人間科学大学にあります。

プロフェSSIONALを目指すみなさんにお届けする

視能訓練士になった一人の学生の軌跡。

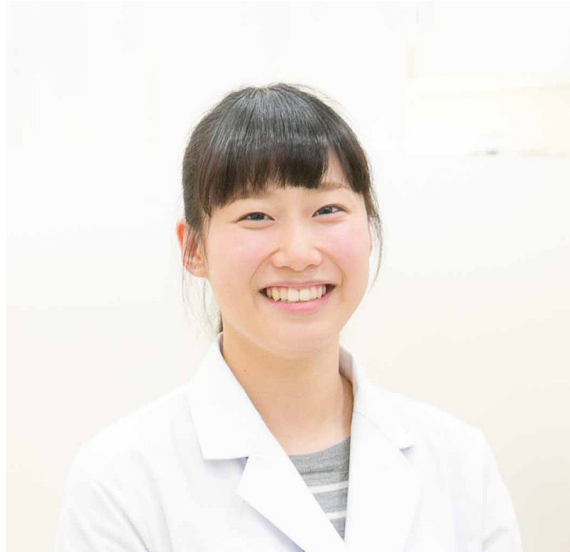
ぜひご覧ください。



成長に、本気。

大阪人間科学大学

成長は、本物。



学生 × 教員



4年次生

木村 優歩 さん

医療福祉学科 視能訓練専攻 2016年3月卒業
取得資格：視能訓練士
就職：公立甲賀病院
滋賀県立河瀬高校出身

教員

丸山 亜実 准教授

所属：医療福祉学科 視能訓練専攻
専門分野：視能検査学・視能訓練学
保有資格：視能訓練士

幼い頃から人を支える医療の仕事に携わりたいと思っていた私が、視能訓練士という医療職を知ったのは母からの勧めでした。その後、盲導犬と生活されている方から、突然眼が見えなくなり非常に怖い思いをされたという話を聞く機会もあり、生活する上で大切な働きをする眼に障がいがある人たちを支援することのできる視能訓練士を目指そうと決心しました。

進路選択の際には色々と学校情報を調べましたが、入学を決めた視能訓練専攻は検査機器をはじめ充実した実習施設があること。そして、素晴らしい実績を持つ先生方に教えていただけると聞いたことが進路決定のポイントでした。専門科目の授業は少人数制のため、疑問に思ったことや分からないことをその場で質問が出来ますし、先生方も私たちが授業の内容をきちんと理解しているか確かめながら進めてくださいましたので安心して学ぶことができました。

ふりかえると視能訓練専攻での4年間は様々な学びがありましたが、学外での臨床実習が一番印象に残っています。私は、臨床の場で視能訓練士の方々が患者さまとどのように接しておられるかを良く観察するようにしていました。人は十人十色といわれるように、同じ検査でも患者さまへの説明の仕方は異なります。正確な検査結果を出すためにはどう説明すれば良いのか、また体が不自由でうまく動かすことのできない患者さまにどのようにお手伝いをすれば良いのかなど、話し方や動き方の一つひとつがとても勉強になりました。この実習での経験によって、弱い自分を捨てて今まで以上に我慢強くなったと思いますが、知識も技術もまだまだ足りません。臨床の場で指導してくださった目標の視能訓練士に少しでも近づけるようにこれからも日々努力していこうと思っています。

視能訓練士を目指すみなさん、医療職は人とかわかりながら仕事をするため、自分の意見や思いを伝えたり、相手の意見を取り入れる力が何より大事だと思います。大学生活の中でサークルやボランティア活動、アルバイトなどを通してたくさんの人たちと話す機会を持つようにしてください。臨床実習に出たとき、必ず役に立つと思います。

入学して間もなく、今の笑顔からは想像できないような形相で大混乱を起こしていた木村さんを思い出します。高校までの勉強とあまりにも違う視能学の内容に面食らってしまったのでしょうか。出だしは大変そうでしたが、学年を重ねることに結果を出し、安定感が増してきました。遠方からでも大学にも実習先にもきちんと通い、地道に努力を続けたことが実を結んだと言えるでしょう。そして内外の実習で視能訓練士の具体的な業務を強く実感することで、より集中力が向上し、伸びやかに成長しました。

3年次の臨床実習、すなわち初めての学外実習に、木村さんは誰よりも早く出ることになりました。その手前の時期は夏季休暇中なのですが、少数の友人と学内の演習室で検査の練習を続けていました。すべきことを自覚し、備えておいたことは実習の成果に繋がったはずです。また、実習先で受けた指導に対して、理解不足であった部分を見直し、即座に修正することができていた点が、学外の実習指導者からも高く評価されました。本来持っている勘の良さも大きいと考えられますが、何より本人の学びに対する誠実さが考える力を育て、評価されるものになっているのだと思います。天真爛漫な笑顔がある中に、いい意味での堅さをしっかりと持っているのが彼女の強みと言えます。その強みを活かし、患者さまに笑顔で対応し、スタッフから信頼される視能訓練士に成長して欲しいと願っています。

視能訓練士を目指す高校生、受験生のみなさん。私は、この人に検査してほしいな、任せたいな、と患者さまやスタッフから思われる視能訓練士になりたい、とも思っています。そのための慎重さ、優しさ、器用さ、知識、判断力…どれを得るにも自分で「考える」ことを通し、努力を続けなければならないとも思っています。みなさんは視能訓練士を目指す早い段階から、「考えながら学ぶ」ことを常としてください。そして、患者さまの辛さを受け止めることができるよう、想像する力を伸ばし、自分にできることを考えてもらいたいと思います。

将来の成長のための基礎力を重視する視能訓練専攻が、みなさんの夢の実現を応援します。

木村さんの時間割 128単位修得(卒業要件単位数124単位)

医療職の基盤をつくる。医学と視覚の基礎知識や検査機器の使用方法を講義を中心に学ぶ。

◎1年次(前期)

	月	火	水	木	金	土
1	社会福祉I			FA演習I	人間科学概論	
2		情報処理演習I	基礎視能学I	オンラインショップ(英語)I		
3	視能学総論	キャリアデザインI	ソーシャルマナー	オンラインショップ(中国語)	心の科学	
4				情報処理演習II	日本語基礎	
5						

◎1年次(後期)

	月	火	水	木	金	土
1	視能矯正学総論			FA演習II	医学知識	
2	視能障害学総論		基礎視能学II	コミュニケーション(中国語)	医学一般I	
3	生物学		視能訓練学総論	オンラインショップ(英語)II	高齢者福祉論I	
4		視能検査学総論			文章表現法	
5						

臨床で必要な専門知識・技術を学ぶ。検査機器を用いた実践的な演習を行い、手技の向上を目指す。

◎2年次(前期)

	月	火	水	木	金	土
1		精神保健の課題と支援I	プレ演習I		医学一般II	
2	神経眼科学	社会学	視能矯正学各論I	眼科薬理学	家族社会学	
3	障害児教育論					
4	視能検査学各論I		視能障害学各論I			
5			視能障害学各論I			

◎2年次(後期)

	月	火	水	木	金	土
1			プレ演習II			
2	視能障害学各論II		視能矯正学各論II			
3	視能訓練学演習					
4	視能検査学演習		視能検査学各論II			
5	視能矯正学演習					

臨床の場で実践。実習での経験と学内で学んだ知識や技術を統合し、専門性を深める。

◎3年次(前期)

	月	火	水	木	金	土
1	視能学実習I					
2	視能学実習II	視能病理学	視能リハビリテーション学		医療福祉学演習I	
3	視能検査学各論III	視能検査機器学	視能訓練学各論III			
4	視能リハビリテーション論		視能矯正学各論III		視能訓練学各論I	
5	視能リハビリテーション論					

◎3年次(後期)

	月	火	水	木	金	土
1						
2					医療福祉学演習I	
3	学外実習(9週間)			視能学実習III		
4						
5						

実習での実践を繰り返し、臨床力の醸成。2月実施の国家試験の合格に向けて対策を進める。

◎4年次(前期)

	月	火	水	木	金	土
1						
2						
3	学外実習(9週間)			視能学実習IV		
4			医療福祉学演習II			
5						

◎4年次(後期)

	月	火	水	木	金	土
1					国家試験対策	国家試験対策
2		視能訓練学各論II			国家試験対策	国家試験対策
3		高齢者の視能障害			国家試験対策	国家試験対策
4		国家試験対策	医療福祉学演習II	高齢者視能訓練実践論		
5						



STUDENT'S
VOICE

初年次から医学や視覚分野の専門的な勉強が多くあり、正直戸惑いました。視覚の正常な状態や検査の基本、各種疾患について講義を中心に学ぶのですが、理解するためには努力が必要です。先生の話を集めて聴くこととどの授業でも心掛けていました。

初年次に得られた知識を基に、学内で実際に検査機器を用いた正常者に対する検査を体験しました。3年次以降の臨床実習での実際の患者さまに対する検査の実践へ発展する学習内容でもあるので、ここでの検査方法の習得はかなり重要でした。

後期の臨床実習を目前にして焦りと不安に駆られ、夏休みに毎日大学の実習室で視力検査や視野検査の練習をしました。そして、臨んだ臨床実習では、知識不足や技術の未熟さを痛感しましたが、学生同士の検査では得ることの出来ない気づきや学びがありました。

前期の臨床実習を終えた後の、4年次後期は国家試験対策が主でした。不明点を個別指導で分かるまで指導してくださった先生と、辛いときや悩んでいるときに一緒に悩み、アドバイスをくれる友達と周りにいたので乗り切ることが出来ました。